

平成 18 年度 舩倉島夏季総合診療実施報告書

平成 18 年 8 月 16 日
舩倉診療所長 山本大輔

平成 18 年度舩倉島夏季総合診療は石川県、輪島市の主催により 8 月 5 日(土)、6 日(日)の 2 日間にわたり実施されました。当日は晴天に恵まれ、皆様のご尽力により、無事に予定通り終了することができました。この総合診療にお力添えをいただいた関係者の方々に感謝し、ここに本年度の実施状況を報告致します。

1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対し、「外科・内科・耳鼻咽喉科・眼科」診療を実施し、もって舩倉島住民の保健医療の向上を図る。

2. 日程

平成 18 年 8 月 5 日(土) 午後 1 時～午後 5 時(眼科は午前 11 時ごろより巡回診療, 3 時より眼底検査)
8 月 6 日(日) 午前 9 時～正午(上部消化管検査は午前 8 時から)

3. 診療科目, 場所

石川県輪島市海士町所属舩倉島出邑山 1-4 舩倉島開発総合センター

玄関ロビー : 受付 *呼吸機能検査, 骨密度測定

診察室 : 外科(上部消化管内視鏡)

検査室 : 眼科

コンピュータ室 : 耳鼻咽喉科

事務室 : 形成外科

保育室 1 : 内科

保育室 2 : レントゲン撮影

集会室(2 階) : 聴力検査

*本年度は 2 日間にわたり看護大学講師, 学生 2 名による呼吸機能検査, 骨密度測定も同時に実施された。

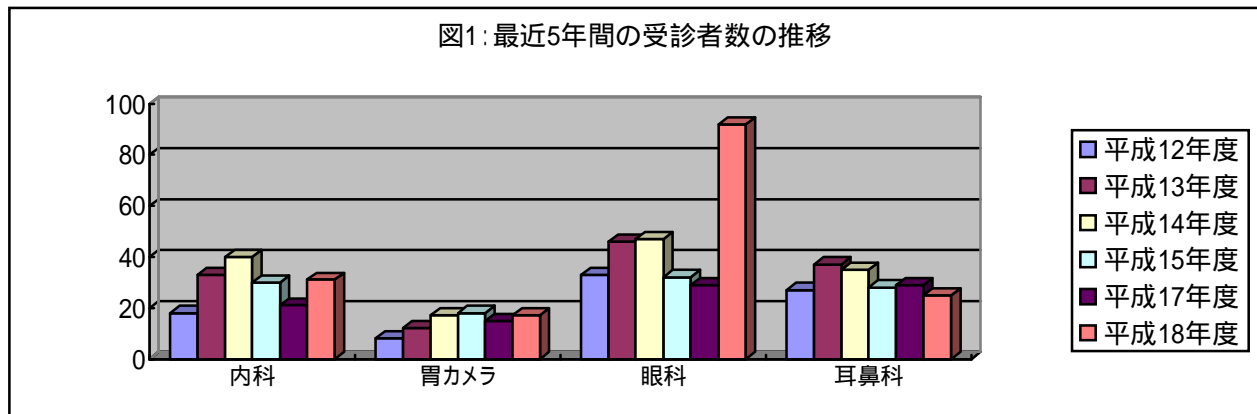
4. 診療従事者

耳鼻咽喉科	小森 貴	医師	(小森耳鼻咽喉科医院)
	藤田 貴子	看護師	(石川県立中央病院)
眼科	山村 敏明	医師	(やまむら眼科医院)
	厚木 麻衣子	保健師	(輪島市)
外科	高畠 一郎	医師	(金沢有松病院)
	大積 友佳	看護師	(石川県立中央病院)
	新造 久子	看護師	(金沢医科大学付属病院)
形成外科	池田 和隆	医師	(浅ノ川総合病院)
内科	上田 章人	医師	(公立能登総合病院)
	辻 国広	医師	(市立輪島病院)
	古谷 治人	放射線技師	(市立輪島病院)
	田丸 孝子	看護師	(石川県立中央病院)
受付	小林 勝義	担当課長	(石川県庁 医療対策課)
	野崎 智広	主任主事	(石川県庁 医療対策課)
	半田 ひとり	主任主事	(石川県庁 医療対策課)
雑務	山本 大輔		(舩倉診療所)

5. 受診状況

日時	内科	外科(胃カメラ)	眼科	耳鼻科	形成外科	総受診件数
8月5日 (人)	28	10	88 (24)	21	6	153
8月6日 (人)	3	7	4 (4)	4	3	22
合計(人)	31	17	92	25	9	175

*眼科は92名のうち診療所にて診察したのは括弧の中の28名。そのうち眼底検査を23人、精密細隙灯検査を5名施行、診療所での診療の他に、個別巡回診療で細隙灯検査を75名施行した。

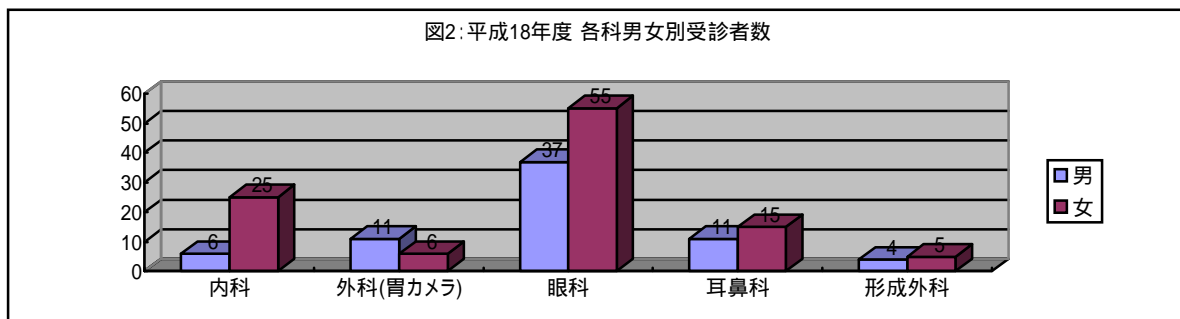


注1: 形成外科は今年度より参加の為、グラフには表していない

注2: 平成16年度は台風のため総合診療は耳鼻科のみ施行

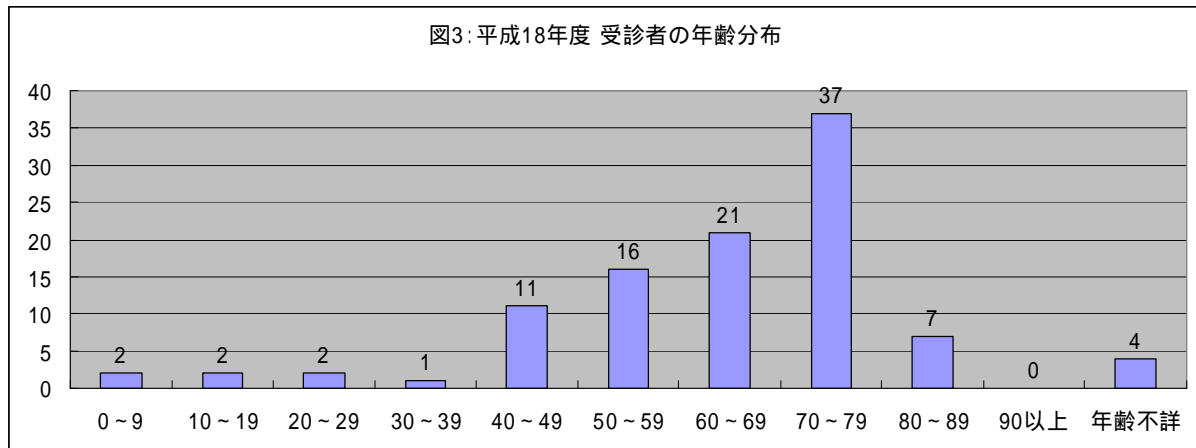
本年度の総受診者数は103名、総受診件数は175件であった。現在の舳倉島の人口は140人程度(夏の時期に人口が増減する為、正確な把握は困難であり、海女の数からの推定の数字)であるので、この数字から計算すると、受診率は約73%となった。

図1に示すように、今年度は眼科で巡回診療を施行した為、受診者数、受診件数ともここ数年の中で大幅に増加した。人口の減少する中、各科とも毎年一定の数は受診しており、今年も精査、加療を要する疾病が発見された。毎年受診者が似かよっているのも、例年どおりであり、眼科のことを考えると、家にいて、総合診療を受診しに来ない人が多数いると考えられる。そういう人たちをどのようにして受診に向けていくかが、今後の課題になると考えられる。



男女比では、図2に示すように外科、形成外科、耳鼻科では差は少ないが、内科、眼科は女性の受診者が多数であった。海女の島であり、女性が多いのも事実であるが、日頃から健康に留意しているのも女性のほうが多く、反対に男性はあまり診療所にかからない傾向が日常診療からもうかがえる。今後、

男性にいかに関心を持ってもらうかも、課題のひとつである。



注:眼科の訪問診療ではすべての受診者の生年月日を把握できなかったため、診療所に受診歴の無い人は年齢不詳とした。

図3の受診者の年齢分布を見ても60歳～79歳の受診者数が目立つ。5年前の記録では60～69歳の層が最も多かったのに対して、今年度は70～79歳の層が最も多く、高齢化が進んでいるのが明白である。今年度は眼科で巡回診療を行ったので、受診者のバイアスが少なく、この年齢層分布はほぼ現在の島の年齢層分布と一致していると考えてよいと思う。今後も高齢化が進むと考えられ、島の医療はより厳しくなると予測される。

6. 各科診療内容

耳鼻咽喉科

舩倉島は海女の島であり、潜水作業が中心となる為、耳、鼻、のどに関する訴えが夏季になると急増し、耳鼻咽喉科診療の必要性はとても高い。今年も耳鼻咽喉科を長年に渡り診療していただいている小森医師に診療していただいた。小森医師には総合診療が行われるようになった当初より、24年間にわたり、継続して診療していただき、総合診療全般においてもいろいろな面で支えていただいている。島民の中ではもうお馴染みであり、厚く信頼されている。今年の診療も例年の如く、喉頭ファイバー、オージオメーターを用いて楽しい雰囲気の中で、充実した診療が行われた。



25名の受診者のうち16名(64%)に所見を認めた。毎年、外耳炎、中耳炎などの耳疾患が多いが、声帯ポリープ等ののどの疾患を指摘される人も多かった。

小森医師の話では、小森医師がイヤパティーと呼ばれるシリコン性の耳栓を舩倉島で使用するようにすすめてから、耳疾患の罹患率が明らかに下がったとのことである。診療の様子を見ていて、小森医師に年に一度みていただけるという安心感が、島民の過酷な海の仕事を支えているのだと思った。

眼科

眼科も、小森医師と同様に長年に渡り総合診療を支えていただいている山村医師により行われた。

今年の眼科診療は例年とスタイルを変え、1日目(8月5日)の11時ごろより山村医師が各家庭に訪問して手持ち細隙灯検査を施行する巡回診療を行った。小さな島といえども、全ての家を回るだけでもかなりの

の時間と体力を要するが、島内の地理を把握している山村医師は1日目の少ない時間でほぼすべての家を巡回診療された。山村医師の島民への情熱がなければ決してできないことであり、その姿に感激した。眼底検査は暗室が必要な為、午後3時より開発センターにて予約制にして行った。

訪問診療では、毎年診療に足を運ばない人も診療され、75名が細隙灯検査を受診した。診療所での眼底検査を含めると合計で92名とここ数年の総合診療ではずば抜けた受診者数となった。

92名のうち、眼科専門医での要精査、加療を指摘されたのが8名(8.6%)であった。細隙灯検査の結果、白内障を認めたのが両眼26名、片眼7名の合計33名(35.8%)で、両側眼内レンズ装着者13名(14.1%)とあわせると、46名(50%)となり、島の高齢化を如実に表していると考えられた。また、6名が糖尿病性網膜症を指摘され、離島での生活習慣病治療の重要性を再認識した。島民の中では、山村医師に、年に一回の定期検査の意味で受診される人も多く、年に一度の眼科診療の必要性はとて高く感じた。



外科(上部消化管内視鏡検査)

上部消化管内視鏡は今年も高島一郎医師に担当していただいた。毎年、この総合診療の際に病変を指摘され、今では手術を受けて元気で生活している人も少なくない。今年は高島医師のご好意により、診療所に総合診療用の電子スコープが準備された。しかし、機器のトラブルにより、当日は使用が不可能であったのが残念であった。

バックアップとして、昨年度まで使用していた内視鏡を準備していた為、検査はスムーズに行われたが、来年度は電子スコープを使用した検査ができるように期待したい。

昨年度から、絶食期間をなるべく短くし、検査がスムーズに行くように完全時間予約制で診療している。2日間で17名が上部消化管内視鏡検査を受け、うち5名(29%)に対して生検が行われた。そのうち1名は胃腺腫の病理結果で近日中に精査予定である。

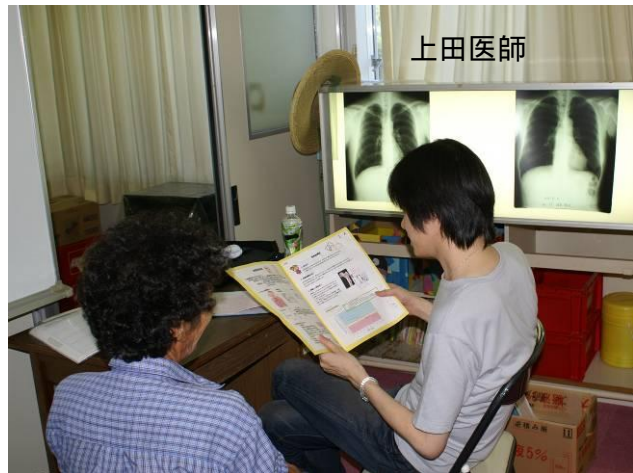
診療中、昨年度の総合診療で早期胃癌を指摘され、その後手術を行い、今は普通に生活している島民の一人が、高島医師に訪問されてお礼を述べる場面もあった。準備も大変で、容易にできる検査ではない為、年1回のこの検査をしていただけるのは島民にとっても、診療所医師にとっても非常にありがた



いことである。

内科

今年の内科診療は、上田医師と辻医師の 2 人に担当していただいた。身長、体重測定、血圧測定、脈拍測定、血中酸素飽和度測定、検尿、心電図検査を全例に施行したのに加え、上田医師が呼吸器内科の専門であることもあって、ほぼ全例に胸部レントゲン撮影を施行し、その場で読影していただいた。その為、今年度は輪島病院の古谷放射線技師に参加していただき、とてもスムーズな撮影、現像が行われた。



診療所に受診する患者さんのうち、約半数は高血圧、糖尿病などの慢性疾患の患者さんである。医師一人の当診療所では全例に検尿、心電図、レントゲン検査をなかなか施行できないのが現状で、今回のように年に一度の検査は島民の健康を保つ上でとても重要なものだと考えられる。また、複数の医師に診療内容を見ていただけるというメリットもあり、いくつかの治療のアドバイスや、さらなる精査が必要とのコメントをいただいた。胸部レントゲン検査の結果、1人は胸部 CT 等の精査が必要であった。

胸部レントゲン検査は肺癌のスクリーニング検査としては大きな意味がないとの意見もあるが、今回、レントゲンを見ながら、タバコの本数を減らした方がいい、心臓が少し大きいなどのアドバイスを受ける場面もあり、私の私見ではあるが、今後も継続して行うことにより、島民の健康維持にはとても有用であると考えられた。今後も継続した実施が望まれる。



形成外科

今年度より池田医師により形成外科が新たな診療科目として行われることとなった。もともと日々の診療では皮膚科、形成外科の疾患はけっこう多かったが、専門医でないと診断、治療できないことが多く、秋や冬に専門医受診をすすめていた。

今回、以前舳倉診療所にも勤めた事のある、池田医師がこられるとの事で、日ごろから気になっている皮膚腫瘍や皮膚のトラブルなどを中心に気軽に受診していただいた。9名が受診し、ほとんどの例でその場で診断され、治療のアドバイスを受けた。中には秋に手術の約束をされる患者さんもあり、充実した診療になった。

また、池田医師のご好意により、DERMABOND とよばれる皮膚の接着剤のような商品を紹介、寄贈していただいた。小さな切創などに使用し、縫合なしで傷の修復が可能なもので、医師一人の診療所ではとても有用なものと思われる。日々の診療に活用していきたい。形成外科の診療に関しては、少なからず島民のニーズはあり、今後も継続した診療が望まれる。



7. 総括, 反省点

今年も1日目終了後、スタッフによる反省会をした。

以下に私見も加えた反省会の概要をまとめた。来年度以降の総合診療をよりよくする為に活用していただきたい。

・毎年、受診者が同じである。40～59歳の若年層は生活の中心が輪島にあるので、診療所に受診する人が少なく、総合診療も参加しない人が多い。気軽に受診してもらえる啓蒙活動が必要である。

・今年度は全例に胸部レントゲン撮影を輪島病院の放射線技師さんにやっていただいたが、本土でもレントゲンを用いた検診が行われている中、診療所でのレントゲン撮影は本当に必要なのか。個人的な意見として、肺癌、結核等の早期発見の意味合いだけでなく、喫煙、心疾患等を含めた健康指導の面ではとても有用であり、毎年継続していけば、病変の早期発見につながると思われる。また、受診した島民の満足度も明らかに大きい。来年度以降も是非継続していただきたい。

・レントゲン装置の老朽化により、安定した撮影ができないことがあった。輪島病院に依頼し、修理もしくは交換を考慮していただく。

・上部消化管内視鏡は今回新しく電子スコープを用意していただいたが、機器の不具合により使用できず、バックアップの内視鏡を使用した。今後も常にバックアップ機器を準備しておくのが肝要である。10分単位の完全予約制、絶食指示は継続してほしい。

・今回、形成外科の池田先生に初めて参加していただいたが、今後同様の申し出があったときに、計画書等を県、総合診療のスタッフに提出し、対応していった方がよいのではないか。所長以外で参加者のマネジメントができる環境が必要ではないか。この総合診療は参加して下さる医師の熱意で支えている部分が大きく、今後も継続させていく為には所長を含め、皆で相談して決めていく必要がある。現時点では所長が中心となり、診療スタッフを決定、県がサポートするという体制は継続する。新たに参加しようとする人がいれば、継続参加の意思の有無を、確認しておく必要がある。

・今年度は眼科診療が巡回診療と予約眼底検査の体制であった。来年度以降、巡回検査をするかどうかは今のところ決まっていない。眼底検査は散瞳に時間がかかるため、あらかじめ診療時間を割り振った予約制とした。例年よりスムーズに行き、待ち時間も短縮できたので来年度以降も予約制で行うことが望ましい。

・普段の診療カルテが必要になることが各科あり、特に必要な内科、上部消化管内視鏡は診療医師に確認しながら所長が効率よくカルテを出していくように努めることが必要。

・クリアファイルの管理、準備物品等は現在の状態で特に問題はなく、今後も継続して欲しい。

8. まとめ

今年で、この舢倉島夏季総合診療も24年目を向かえることができた。ここまで総合診療が継続しておこなわれたのは、石川県、輪島市の協力、そして長年に渡り診療を支えてくださっている診療スタッフの熱意、努力に他ならない。この総合診療に対する島民の期待と信頼は大きく、現在の舢倉島診療の土台をなすものである。今年度より形成外科が新たな診療科目として加わり、内科における全例のレントゲン撮影の施行、眼科の巡回診療などの新たな試みも行われ、大変充実した総合診療となったと思う。

舢倉島島民の高齢化、人口の減少などの問題の中、島民の生活、ニーズに合わせたこの夏季総合診療がよりよい形となり、これからも継続されることを祈念する。

9. 謝辞

今年度も無事に舢倉島夏季総合診療を行うことができました。この総合診療を行うにあたり、ご尽力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今後とも舢倉島島民の為、ご支援の程よろしくお願い致します。

舢倉診療所 山本大輔



平成 18 年度診療スタッフ集合写真 H18.8.6